

第4回 沖縄県青壮年・女性漁業者交換大会

大会スローガンの趣旨

最近の漁業環境は、輸入水産物の増加による、魚価の低迷公海漁場の規制強化や漁業資源の減少など厳しさを増してきており、今後の水産業の振興を図るためには従来の漁業形態から脱し、周辺海域を高度に利用した沿岸漁業及びつくり育てる漁業を中心とする生産構造への転換が求められている。

このような状況に鑑み、早急な資源管理を中心とする力強い漁業生産体制と高付加価値型漁業経営を構築するとともに、漁協の機能を整備強化し、全漁業者の力を漁協に結集し、漁業、漁村の活性化を図る必要がある。

さらに、協同意識の高揚を基本目標に、系統相互の連携を強化し、漁協青壮年、女性漁業者の資質の向上と組織の強化を推進する。

交換大会プログラムにのっとり、午後1時30分開催。当日の参加者270名、関係団体機関12名の女性職員による大会テーマソング「漁業協同組合の歌」斉唱、全員で合唱、交換大会の幕が開かれた。

5課題の発表が行われ、続いて全体討議（パネルディスカッション）のテーマ「水産業と観光漁業について」、パネリストの意見発表が行われた。時間がなく討議されないまま終わった。続いて審査委員長から5課題の発表講評、表彰が行われ、知事賞は「シラヒゲウニの資源管理について」の今帰仁漁協ウニ部会の平田勝信氏と、「直売活動で輝く女性を目指して」の伊江漁協婦人部の島袋信子氏が受賞した。受賞者2人は平成11年3月に始まる全国交流大会に派遣される事になる。さらに、沖縄県指導漁業士

とき：平成11年1月13日（水）午後1時30分
ところ：水産会館5階大ホール

3名の紹介と認定式が行われ午後6時過ぎに本大会は終了。そして、懇親会が催され、舞台の余興を楽しみながらお互いの親睦を深め、水産業の発展に期待を込め10年度大会は成功裡に閉会した。

今後の課題として、交換大会とディスカッション、表彰式、漁業士認定に要した時間は約5時間であった。両方同時に開催されるようになって、参加者から長すぎるという苦情が多く、次年度大会のディスカッションのテーマは「資源管理型漁業について」を予定していることから、漁青連総会で開催し、広く討議を行ったほうがよいと思うのである。

◎実績発表課題及び発表者

1. シラヒゲウニの資源管理について
今帰仁漁協ウニ部会
平田勝信
2. 中層魚礁の設置と効果について
伊良部町漁協小型船主組合
伊良皆恵行
3. 直売活動で輝く女性を目指して
伊江漁協婦人部
島袋信子
4. トロピカルマリン・シーリズムを
目指した婦人部活動
読谷漁協婦人部
儀間トキ
5. 組織活動で楽しいネットワークづくり
糸満漁協豊見城婦人部
金城順子



水産関係団体機関12名の女性職員による大会テーマソング「漁業協同組合の歌」で全員合唱、交換大会の幕が開かれた。



「シラヒゲウニの資源管理について」を発表した今帰仁漁協ウニ部会の平田勝信氏



「直売活動で輝く女性を目指して」を発表した伊江漁協婦人部の島袋信子さん



「組織活動で楽しいネットワークづくり」を発表した糸満漁協豊見城婦人部の金城順子さん



「トロピカルマリン・シーリズムをめざした婦人活動」を発表した読谷漁協婦人部の儀間トキさん



「中層魚礁の設置と効果について」を発表した伊良部町漁協小型船主組合の伊良皆恵行氏



発表後、審査委員長から5課題の発表講評。盛大な拍手で表彰が行われた。

(向かって右から平田勝信氏、伊良皆恵行氏、島袋信子さん、儀間トキさん、金城順子さん)



お忙しいなか参加して下さいました水産関係者270名



「水産業と観光漁業について」の
パネルディスカッション(全体討議)
コーディネーターの糸満盛健氏
(沖縄県漁業信用協会理事長)



パネリスト5名
(向かって右から伊野波盛仁氏(県漁連専務理事)、比嘉康雅氏(県漁青連委員長)、西銘仁正氏(伊平屋漁協理事組合長)、伊良波淳世氏(県指導漁業士)、比嘉義視氏(恩納村漁協))



沖縄県指導漁業士3名の認定式と紹介
(向かって右から砂川有造氏(平良市漁協)、上原清秀氏(港川漁協)、比嘉行三氏(国頭漁協))



最後に、懇親会が催され、舞台では三線、琴の曲で祝いの踊りを楽しみながら親睦を深め、水産業の発展に期待を込め成功裡に終了した。

踊り：向かって右から照喜名エチ子さん(信漁連)、宮城洋子さん(漁船保険)